

安全データシート

SDS No. 1001-0245

作成日 2002年 6月17日

改訂日 2017年 7月 5日 1/4頁

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : AMIPACK 141
提供者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
製品コード : 1001-51004、1001-51005、1001-、1003-
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
整理番号(SDS No.) : 1001-0245
推奨用途及び使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

AMIPACK 141はGC分析用充填剤です。本製品がカラムに充填された場合、外部に漏れ出すことはありませんが、情報提供の観点から、以下に充填剤の情報を記載します。

充填剤自体の情報も以下の通りです。

GHS分類 : 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性及び眼刺激性 : 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分2(呼吸器)

ラベル要素 :



注意喚起語 : 危険
危険有害性情報 : 皮膚刺激
重篤な眼の損傷
臓器の障害のおそれ(呼吸器)

注意書き

[安全対策]

: 粉塵/ガス/蒸気を吸入しないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

[応急措置]

: 皮膚又は髪に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚をシャワーで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合:医師の手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

[保管]

: 施錠して保管すること。

[廃棄]

: 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

上記で記載がない危険有害性は区分外、分類できないまたは分類対象外。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物
化学名(又は一般名) : AMIPACK 141

成分名	含有量	化学式又は構造式	官報公示整理番号	CAS No.
珪藻土(レンガ系)	68%	SiO ₂ (主成分として)	設定されていない	91053-39-3
水酸化カリウム	4%	KOH	1-369	1310-58-3
その他	28%	非公開	非公開	非公開

危険有害成分 : 水酸化カリウム

4 応急処置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気の所へ運び、安静保温に努め、直ちに医師の手当を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。こすると眼球を傷つける恐れがあるのでこすらないこと。直ちに医師の手当を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、大量の水で薄めて、直ちに医師の手当を受ける。無理に吐かせないこと。
- ばく露した場合 : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状 : 粘膜や気道、皮膚や眼の刺激が生じたり、接触した箇所の火傷や発赤などが起こる可能性がある。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

- 消火剤 : 水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 火災時の特有危険有害性 : 火災によって刺激性、もしくは有毒なヒューム(またはガス)を発生するおそれがある。消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特定の消火方法 : 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動の際は、適切な空気呼吸器と化学用保護衣を着用する。

6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚や眼に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 回収、中和 : 飛散した物は、密閉できる容器に回収する。その後を多量の水を用いて洗い流す。

7 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 眼、皮膚への接触を避ける。酸性物質、酸化剤との接触を避ける。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵を発生させない。使用後は容器を密閉する。吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。
- 保管
- 適切な保管条件 : 直射日光を避け、換気の良いなるべく涼しい場所に密閉して施錠保管する。
- 技術的対策 : 特になし
- 混触危険物質 : 酸性物質、酸化剤
- 安全な容器包装材料 : ポリエチレン等(密閉できるもの)

8 暴露防止及び保護措置

- 設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
- 管理濃度 作業環境基準 : 設定されていない

許容濃度等

化学名	日本産業衛生学会	ACGIH TLV	OSHA PEL
水酸化カリウム	2mg/m ³		
珪藻土	吸入性粉塵 0.5mg/m ³ 総粉塵 2mg/m ³	設定されていない	
その他	設定されていない		

保護具

呼吸器用の保護具	: 防塵マスク
手の保護具	: 保護手袋
眼の保護具	: 保護眼鏡、側板つき保護眼鏡(必要によりゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣、保護長靴
適切な衛生対策	: マスク等の吸着剤の交換は定期的または使用の都度行う。 取扱い後はよく手を洗う。

9 物理的及び化学的性質

形状	: 粒状
色	: 薄い褐色～褐色
臭い	: データなし
pH	: データなし
融点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: データなし
発火点	: データなし
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度	: データなし
溶解性	: 水、アルコール、アセトンに不溶。
n-オクタノール／水分配係数 log Po/w	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし

10 安定性及び反応性

安定性	: 空気中の水分、炭酸ガスを吸収しやすい
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: 湿気、日光、熱、酸性化合物、酸化剤、塩基性化合物との接触
混触危険物質	: 酸化剤、酸性物質、塩基性物質
危険有害な分解成分	: 一酸化炭素、二酸化炭素
推奨用途及び使用上の制限	: 試験・研究用

11 有害性情報

急性毒性(経口)	: 水酸化カリウム(ラット LD50=284mg/kg)で区分3に該当し、計算の結果 > 5000mg/kgとなり、混合物として区分外となった。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 水酸化カリウムが区分1Bに該当しその濃度が5%未満であることから、混合物として区分2となった。
(水酸化カリウム)	: ウサギによる試験で腐食性、ヒトに対して腐食性の記載があり(SIDS, 2001)、国連分類クラス8IIに分類されている。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: 水酸化カリウムが区分1に該当しその濃度が3%以上であることから、混合物として区分1となった。
(水酸化カリウム)	: ヒトに対して不可逆な障害、ウサギの試験で腐食性の記載がある(SIDS, 2001)。
感作性	: 感作性の原因とはならない(SIDS, 2001)
生殖細胞変異原性	: 水酸化ナトリウムがin vivo試験で陰性(SIDS, 2001)であり、水酸化カリウムも同様であると類推できる。
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 水酸化カリウムが区分1に該当しその濃度が10%未満であることから、混合物として区分2となった。
(水酸化カリウム)	: 粉塵又はミストを吸入暴露すると鼻、気管支に熱傷等の障害を起こし、肺水腫にまで至るとの記載がある(SIDS(2001), ACGIH(2001), PATTY(5th, 2001))。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: データなし
吸引性呼吸器有害性	: 水酸化カリウムが区分1に該当するがその濃度が10%未満であることから、混合物として区分外となった。
(水酸化カリウム)	: 吸引により肺炎で死に至るとの記載がある(ACGIH, 2001)。
1 2 環境影響情報	
生態毒性	: 水酸化カリウムが強アルカリ性のため、水生生物に有害な影響を与える可能性がある。
残留性/分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への影響	: 本製品に含まれる成分はいずれもモンリオール議定書に列記されておらず、オゾン層破壊物質に該当しない。
1 3 廃棄上の注意	
残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。
1 4 輸送上の注意	
国連番号	: 1759
品名	: その他の腐食性物質(固体)(他の危険性を有しないもの)(水酸化カリウム)
国連分類	: クラス8(腐食性物質)
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 非該当
注意事項	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
1 5 適用法令	
毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	: 施行令 第18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物 別表第9 No. 316 施行令 第18条の2 名称等を通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No. 316
化学物質排出把握管理促進法	: 非該当
化審法	: 非該当
消防法	: 非該当
船舶安全法(危規則)	: 腐食性物質
航空法	: 腐食性物質
1 6 その他の情報	
引用文献等	独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム、有害性評価書 安全衛生情報センター 化学品安全管理データブック、化学工業日報社 16514の化学商品 化学工業日報社(2014) 他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。